キイレツチトリモチ産地

【所　在　地】鹿児島市吉野町字桜谷，柳ヶ谷，東愛宕，新道
【種　　別】国指定天然記念物
【指定年月日】大正 10 年３月３日

キイレツチトリモチは，ツチトリモチ科の１年生の寄生植物で，葉緑素をもたないため光合成がおこなわれず，トベラやシャリンバイ，ネズミモチなどの細根に寄生して栄養を得る。10 月下旬から 11 月中旬にかけて，高さ３～ 11cm，直径２ cm の円筒形の花茎を地上に出し，茎には淡黄色の鱗片葉がついており，先端に雄花と雌花の混生する花序ができる。

この植物は，揖宿郡喜入町で初めて発見され，その後，現指定地で多数生育しているのが見つかり，本地域がキイレツチトリモチ産地として指定された。自生地は，暖地性植物の生える海岸近くの山林で，そこのトベラの木に寄生している。

日本には同属の種が４種あるが，他の３種はいずれも雌雄異株で，花序は赤色または黄褐色系である点で区別する。日本における自生地の北限は長崎市であるが鹿児島県内では県中南部から甑島，種子島，屋久島，奄美大島などに自生している。ヤッコソウとともに極めて珍しい植物である。